

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972600245		
法人名	社会福祉法人 黒潮福祉会		
事業所名	グループホーム 優夏		
所在地	高知県幡多郡黒潮町入野 3512-2		
自己評価作成日	平成25年7月4日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月13日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念でもある「生まれ育った地域の中で、和やかな生活」と「何時も笑顔でゆったりと楽しく家庭的な雰囲気づくり」に沿ったケアの実践をしており、利用者に寄り添い家族同様の関係や地域との関係をより深めていく事を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3972600245-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022">http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JgvosyoCd=3972600245-00&amp;PrefCd=39&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年8月6日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設後9年を経過し、地域の農道の草刈り、夏祭り、敬老会、ふれあいサロン等に参加するほか、回覧版を届けてくれた人や通りかかった住民に気軽に声をかけ一緒にお茶を飲むなど日常的に地域と交流している。運営推進会議のメンバーには行政関係以外に地区長、老人クラブ、婦人会等地域の各方面からの協力があり、苦情相談員として委嘱した地区の婦人会長の定期的な訪問を受ける等、地域に開かれた事業所として前向きに取り組んでいる。管理者と職員は、事ある毎に話し合いを持ち、勤務体制や業務分担を工夫して、レクリエーションの充実や利用者一人ひとりと関わる時間を確保するなど、ケアの改善に取り組んでいる。また、利用者の言動をしっかり受け止め、生活歴や入居後に得た情報等からその人らしさを理解し、それをケアの原点として徹底するよう努めており、利用者本位のケアを進化させながら、理念の実現に向けて日々歩んでいる事業所である。

# 自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員でそれぞれの理念の案を作り協議し、運営推進委員会の助言を仰ぎ、地域密着型サービスとしての新しい理念を作りました。機会あるごとに確認しながら実践につなげています。	理念は目につきやすい場所に掲示し、折に触れ見て考えるよう職員に指示し意識づけている。利用者に関わる時間を多くするための勤務体制の変更や、利用者の平穏な暮らしへの配慮、利用者との1対1で過ごす時間の確保などの実践につなげている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の班の一員として回覧版を回したり、班の行事には参加させて頂いています。又、町主催の一斉清掃や避難訓練に参加し地域交流に努めています。	農道の草刈り、夏祭り、敬老会、ふれあいサロン等の地区行事へ参加し、事業所開催の敬老会には地元婦人会の参加協力がある。また、回覧版を届けてくれた人や通りかかりの人を誘ってお茶を飲む等日常的に交流している。散歩の途中で野菜をもらったり介護等の相談にも応じている。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成としてヘルパー養成講座の実習生を受け入れています。又在宅で生活されている認知症の家族の方の相談にも応じています。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の際に経過、結果を報告し現在取り組んでいる内容に対しても意見や助言を求めサービスの向上に活かしています。	事業所から利用者の状況や行事等の報告を行い、様々な質問に応じて会議録も分かりやすく記載し閲覧できるようにしているが、サービスの改善につながる意見交換や会議録の十分な周知にまで至っていない。また、昨年実施した自己評価についての報告が行われていない。	改善課題を話し合うという運営推進会議の目的をメンバーで共有し、議題設定の工夫や自己及び外部評価に基づく話し合い等により、改善意見を求めて運営に反映するとともに、会議録のより積極的な公開についても取り組みを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月一度以上は役場に赴き現状報告しています。課題解決には担当者と協議し指示を仰いでいます。	町とは運営推進会議や入居に関する情報交換時に事業所の実情等を伝え話し合っている。また、制度に関する相談や疑問にも町担当課は気軽に応じてくれており協力関係ができています。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	縛る事だけが拘束でないこと、言葉での拘束、無意識の拘束無いか等機会あるごとに確認しています。又、鍵をかけないケアに取り組んでいます。帰宅希望などあり落ち着かれない時には散策したりドライブに誘い気分転換をして頂いています。	職員は主体的に身体拘束に関する外部研修に参加し、研修内容を全職員に伝達すると共に質問に応じることで理解を深めている。職員は身体拘束にあたる行為やその弊害を理解し、言葉による行動制限等を注意し合うとともに、利用者が行動を自分で決め納得を得られるような方向で支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へも積極的に参加し、職員会等機会ある度に虐待について話し合い防止に努めています。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われる状態が発生した場合は、行政への相談や勉強会を開き職員の理解を深め利用者の援助につなげていきます。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に至るまでに、本人様、家族様の意向、不安、疑問について傾聴し十分に説明し納得して頂いてから契約しています。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	地区代表の方に苦情相談員を委嘱し、利用者本人が意見、苦情を出しやすい様に働きかけています。面会時に家族の方とゆっくり話し合える機会を設けています。困っている事、不満な事、私達に希望されている事等ないか常に問いかけています。	利用者の要望等は日々汲み取ってケアに反映している。また、委嘱した苦情相談員による利用者からの聞き取りもある。家族からは、面会時に意見を聞くほか、家族同士の話し合いの機会も設けているが、特に意見は出ていない。意見等があれば改善経過や結果を伝えていくことにしている。	
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会や日々の生活の中での気付き等個々の意見提案を求めています。職員より意見提案があれば改善に向け取り組んでいます。	職員会のほか随時に職員の意見を聞くようにしており、勤務体制や業務分担の変更等、利用者主体のケアにつながる改善を行っている。また、新しい入居者については、職員と管理者と一緒に訪問して面談し、他の職員の意見も聞きながら入居を決定している。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が目標を定め、目標達成に向けての取り組み等で評価しています。健康診断、腰痛検査も定期的に行われています。又、業務の見直しを行う事でより良い環境整備を目指しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成し計画的に研修会に参加できるようにしています。事業所内での日々の業務のなかでの指導、育成も行っていきます。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連の事業所との意見交換、勉強会を行っています。又、高知県宅老所、グループホーム連絡会に加入し情報を得ています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話をじっくり傾聴し、その思いや不安を汲み取り、職員との信頼関係を築くように努めています。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に家族方と十分に話し合い、困っている事、不安なこと等傾聴し、事業所としてどのような対応が出来るか説明し、信頼関係を築いています。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護サービス利用について戸惑いなどがある場合には、段階的なサービスの利用等を勧めたり、困った時には何時でも相談して頂けるよう柔軟に対応しています。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりのできる事を見極め、出来る事には積極的に参加して頂き、協働しながら支えあっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<b>○本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、「優夏便り」を家族に送付し、利用者の暮らしぶりを知って戴く事で、とても喜んでいただいています。また、行事等への参加を頂くなど、協力関係を築いています。		
20	(8)	<b>○馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、知人等の来訪を歓迎しており、ゆっくり面談出来るように場所の提供を行っています。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所の情報を把握し、ふる里訪問の際に親せきや近隣の住民に声をかけて交流を支援している。また、面会者が複数の利用者共通の知り合いであるときは、和やかに交流が出来るよう配慮している。	
21		<b>○利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気のあった利用者同士の時間、皆さん一緒の時間等を交えて楽しく生活できるように支援しています。		
22		<b>○関係を断ち切らない取組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の病院、施設に移られた方の情報を関係者から得たり面会に行っています。ご家族の相談等にも応じています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	<b>○思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の居室等で、ゆっくりと話を聞く時間を設け、困っている事やしたい事等を尋ねたり、世間話の中からも思いをくみ取り支援に生かしています。	利用者の思いは毎日の生活の中で聞き、家族の情報も踏まえて利用者本位に検討している。気になる言動や理解しがたい言動があるときは、過去の暮らしから理解するように努めている。ただし、長年の生活習慣や好み、暮らし方の思い等についての記録が十分にはできていない。	その人らしい暮らしの情報は、将来にわたる安定した暮らしに不可欠なものであり、生活習慣や暮らし方の思い等の情報を記録に整理し、より充実したチームケアに役立てるよう期待したい。
24		<b>○これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族の面会時、日々の暮らしぶりから情報を得たり、利用者本人の会話の中から生活歴等の把握をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活リズムを把握し、出来る事、興味のあることに注目し残存能力の把握に努めています。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者が少しでも自分らしい生活を送れるように、本人、家族の希望を伺いながら職員会、カンファレンス等で意見交換を行い利用者一人ひとりに合った介護計画を作成しています。	利用者、家族、その他関係する職種からの情報や意見を基に計画を作成している。アセスメントや課題分析では、表面的な事象の背景を理解し、利用者が得意なことやしたいことを反映した計画策定に努めている。計画の見直しは6カ月毎に行い、変化があればその都度行っている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランチェック表の作成、日々の気付きや状態の変化を記入し、勤務前に確認しています。又、介護計画の見直し、評価に生かしています。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じ予定日以外の通院介助、外出、外泊の援助をしています。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の健康づくり推進委員会、婦人部、区長さん等の協力を得て、保健師の指導に依るミニデイへの参加をさせて頂き、地域の皆さんとの交流の場を提供していただいています。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する病院の受診を援助しています。受診時には家族、医師との情報交換もしています。皮膚科への通院援助、歯科医の往診も受けています。	利用者、家族の希望する医療機関に受診しており、通院は基本的に職員が支援している。受診結果に変化があれば、その都度家族に報告している。職員は、引き継ぎや個別の記録で情報の共有を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職との協働</b> 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	一週間分のバイタルチェック表、健康チェック表で健康相談や助言を頂いています。発熱、体調不良時には、電話での指示を受けています。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、短期間で退院できるよう医療機関と連携して援助しています。入院中は職員が時々見舞に行き馴染みの関係を維持し退院後の生活が安心して出来るよう援助しています。		
33	(12)	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合でも、本人家族の希望があれば十分な話し合いをしながら、事業所でできる事等理解していただき支援につなげたい。	看取りに関する指針に沿って利用者、家族に説明し、重度化の傾向が見られた時に、再度、意思確認をして事業所の方針に同意をもらっている。協力医療機関は、法人の母体でもあり連携体制は十分整っている。また、看取りの研修にも希望する職員が参加する方向で法人幹部に相談している。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急手当てやAEDを使用した蘇生術の研修を受けています。事業所内でも機会がある度に手順の確認等して緊急時に備えています。		
35	(13)	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の総合訓練、避難訓練の指導を受けています。地域では自治会、運営推進委員のメンバー、地域の消防団に協力を呼びかけています。	津波を想定した地域の避難訓練に参加し、避難経路や避難場所を確定している。事業所独自の避難訓練は年2回実施しているが、地域住民の参加や協力は得られていない。消火器等の設備器具は定期的に点検しており、食糧等の備蓄も3日分を目安に準備している。	災害時には地域の協力が欠かせないことから、引き続き運営推進会議等を通じて地域住民に事業所の防災訓練への参加を呼びかけ、地域との協力体制を築くよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	<b>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</b> 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議や記録の際に個人の名前を出さないように注意しています。失禁など何か失敗した時には、さりげなく声かけするなどの対応をしています。	失禁時はさりげない対応を行い、状況により同性介助を心がけている。職員は、どんな状況でも利用者をしっかり受け入れることが人格を尊重することと考え、基本情報や入居後の情報等から理解したその人らしさを尊重したケアに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<b>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</b> 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者のしたい事、食べたい物など、常に問いかけ希望に沿った支援をしています。		
38		<b>○日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な流れはあるも、起床時間もその時に応じてずれる事もあるが、その時の状態、気持ちを尊重し出来る限り個別の対応を行っています。		
39		<b>○身だしなみやおしゃれの支援</b> その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装、好みの服を共に選んだりする事で、職員との会話の弾む等、利用者一人ひとりの個性に応じた身だしなみやおしゃれを支援しています。		
40	(15)	<b>○食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭菜園で取れた野菜や春に採れた竹も子、前年に干した渋柿、庭にある、イチジク、やまもも、ブラックベリーなど一緒に収穫した物でその季節を感じて戴けること、又一人ひとりの好みに合ったものの提供をして楽しみのある食卓にする事で会話も弾み、楽しく和やかに食も進みます。	献立は、利用者の好みや事業所で収穫したり近隣から提供された野菜、暦上の行事等を考慮して作成している。下ごしらえは利用者の食欲を促す効果もあり、参加を呼びかけ利用者の得意なことが活かせるよう支援している。職員は食事の介助をしながら一緒に食事をしている。	
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月一回、管理栄養士による指導を受けています。毎食の摂取量のチェック、料理の盛り付けの工夫をし栄養バランスの良い食事で偏食を防いでいます。又、個人毎の水分摂取量を把握し、外出、入浴後等こまめな水分補給を行っています。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けをし、個々の能力に応じて職員が介助、見守りをしています。週一回義歯洗浄剤にて洗浄しています。		
43	(16)	<b>○排泄の自立支援</b> 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインを見逃さないようにし、失敗しても傷つけないように声掛けし対応しています。又、随時の声掛けをし促しています。	排泄のサインを見逃さないよう、また失禁時に気持ちを傷つけないよう配慮して支援している。日中は布パンツを使用し、やむを得ない時のみ紙パンツを使用して自立につなげている。3名の利用者が自立してトイレで排泄している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の水分補給や野菜を多く取り入れた食事の提供、散策や体操等で体を動かし排便を促しています。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後一時より入浴担当職員が出勤し、それ以後は夜間入浴も含め何時でも入浴出来る様にしています。入浴拒否の場合は、時間をおき再度の声掛けをしたり、他の職員が対応するなどチームプレーによる入浴介助を行っています。	毎日、13:00から夜間も含めて入浴可能な体制にしている。利用者自ら入浴する気になってもらうように関わり、時には時間をずらしたり、職員が変わって誘う工夫をしながら、2日に1回は入浴できるよう支援している。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように日中の活動の援助、夕方から就寝に向けて利用者の心が安らぐ時間を過ごして頂けるように支援しています。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の効能を把握出来るようにファイルにまとめ、各個人の薬入れの中にも説明書を入れてあります。又投薬に変化あった場合には引継ぎに記入し、全職員に周知し変化見られた時には記録に残しています。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で利用者の経験や知識を発揮できる場面作りをしています。暮らしぶりを便りで家族と共有できるようにしています。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望なども伺いながらドライブや散策、買い物、花見など季節を感じる事が出来る外出支援を行っています。車酔いされる方、遠出の好きな方、それぞれに合わせて柔軟に支援しています。	気候のいい時期には毎日交替で散歩に出かけている。また、事業所の駐車場に出て周辺の田畑を見ながら外気に触れる機会も作っている。職員が出かけるときには、その都度外出希望をとり一緒に出かけている。その他、様々な花見や外食等にも皆で出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族から小遣いをもらわれたり、事業所で預っている小口現金より希望時に渡すようにとの希望される家族の方も居られます。本人が買い物にいかれたりした時には自ら支払いされます。買い物代行希望されることもあります。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ利用者本人が電話したり、職員の介助にて家族に電話するように援助しています。手紙等は代読も、ご希望に沿って支援しています。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、年間を通じて季節を感じられる飾り付けを一緒にして、それぞれの季節の行事を楽しんで頂けるよう取り組んでいます。又、その季節の花を飾るなどして心が和むように努めています。	居間兼食堂は広く、四季の陽ざしによって居間と食堂を入れ替えている。廊下の突き当たりには、「陽だまり」と称する利用者同士が談笑できる人気の場所がある。壁面には、共同作成した大きな紙製の木を貼り、四季の移り変わりを創作で表現できる工夫がされ、和やかに落ち着いた空間となっている。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日だまりに長椅子を置き、気の合う仲間同士気ままに過ごしていただいています。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物等を持って来られて良い事説明しています。仏壇、テレビ、筆筒等利用者の好みの物が持ち込まれています。	ベッドは備え付けであるが、馴染みの家具やテレビ等を持ち込み、仏壇にはお茶とご飯をお供えするなど、これまでの暮らしの継続ができる居室となっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりをつけることで安心して移動が出来るようになり、日だまりなど場所に名前をつける事で馴染みやすくなっているようです。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				